

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】平成20年7月17日(2008.7.17)

【公開番号】特開2006-23752(P2006-23752A)

【公開日】平成18年1月26日(2006.1.26)

【年通号数】公開・登録公報2006-004

【出願番号】特願2005-200723(P2005-200723)

【国際特許分類】

G 03 F 7/00 (2006.01)

G 03 F 7/004 (2006.01)

G 03 F 7/033 (2006.01)

G 03 F 7/32 (2006.01)

【F I】

G 03 F 7/00 503

G 03 F 7/004 505

G 03 F 7/004 507

G 03 F 7/033

G 03 F 7/32

【手続補正書】

【提出日】平成20年6月3日(2008.6.3)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

(i) 親水性表面を有するかまたは親水性層が設けられた支持体およびその上に設けられたコーティングを有する感熱性ネガ作用性印刷版前駆体であって、コーティングが疎水性熱可塑性重合体粒子および親水性結合剤を含んでなる像記録層を含んでなり、ここで疎水性熱可塑性重合体粒子が45nm～63nmの範囲内の平均粒径を有しそして像記録層中の疎水性熱可塑性重合体粒子の量が像記録層に関して少なくとも70重量%である印刷版前駆体を準備し、

(ii) コーティングを熱または赤外光に露出し、それによりコーティングの露出された領域における熱可塑性重合体粒子の合体を誘発し、

(iii) pH₁₁を有しそして磷酸塩緩衝剤または珪酸塩緩衝剤を含んでなるアルカリ性水溶液を適用することにより前駆体を現像し、それによりコーティングの露出されなかつた領域を支持体から除去する

段階を含んでなる平版印刷版の作製方法。

【請求項2】

疎水性熱可塑性重合体粒子が45nm～55nmの範囲内の平均粒径を有する請求項1に記載の平版印刷版の作製方法。

【請求項3】

像記録層中の疎水性熱可塑性重合体粒子の量が像記録層に関して85重量%未満であるか又は85重量%に等しい請求項1～2のいずれかに記載の平版印刷版の作製方法。

【請求項4】

親水性結合剤がpH₁₀を有する水性現像液に可溶性である請求項1～2のいずれかに記載の平版印刷版の作製方法。

【請求項 5】

コーティングが像通りの露出後であるが現像前に可視像を与える1種もしくはそれ以上の化合物をさらに含んでなる請求項1～2のいずれかに記載の平版印刷版の作製方法。